<table>
<thead>
<tr>
<th>タイトル</th>
<th>判例研究 ゴルフ場クラブハウス内貴重品ロッカーでの銀行キャッシュカード盗難につき商事寄託の成立と場屋営業者の注意義務違反等を否定して損害賠償請求を棄却した事例</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>中元 啓司</td>
</tr>
<tr>
<td>引用</td>
<td>北海学園大学法学研究 41(4): 875-893</td>
</tr>
<tr>
<td>発行日</td>
<td>2006-03-31</td>
</tr>
</tbody>
</table>
判例研究
ゴルフ場クラブハウス内貴重品ロッカーでの銀行キャッシュカード盗難につき商事寄託の成立と場屋営業者の注意義務違反等を否定して損害賠償請求を棄却した事例
平成26年12月21日東京高裁第一民事部判決（平成26年（ニ）第三四一号、第四一号号損害賠償請求控訴、付帯控訴事件、原判決取消上告受理申立て）金融・商事判例二二五号九頁

中元啓司

北研41（4・207）875
料力装置と個々取納ボックス全体を、本件ロッカーという。なお、一括・五号のボックス（本件ボックス）に、ロックする四桁の暗証番号としてXのM銀行のキャッシュカードの暗証番号と同一の番号を登録し、現金と銀行キャッシュカードとクレジットカードと、本件ボックス内の現金および時計を入れて扉を占め、本件ボックスの入力装置の上部に貼られている無線式の赤外線カメラによって録画したXの入力操作の映像から、本件ボックスの番号と暗証番号を判別して本件ボックスを開扉し、中に入金された現金の状態を確認した。その後、不正に作成されたKのカードがボックスを引き出し、財布から現在の三万円とキャッシュカードとクレジットカードを抜き出し、財布は本件ボックスに預けられた金額の合計一五六円を引き出しした。その金額の詳細は次の通りであって、本件ボックスの暗証番号が印字されたレシートに係る実際の金額である。

第一審での争点は、①商事寄託契約（商法五九三条）による商事寄託契約（商法五九三条）が成立して、②キャッシュカード・クレジットカードに基づく本件ボックスの寄託・保管の責任の有無があるかどうか。③Yの行為が寄託・保管の責任をいうなら、寄託・保管の責任が寄託・保管の責任であるか否か。④Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑤Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑥Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑦Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑧Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑨Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑩Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑪Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑫Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑬Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑭Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑮Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑯Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑰Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑱Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑲Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。⑳Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉑Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉒Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉓Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉔Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉕Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉖Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉗Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉘Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉙Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉚Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉛Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉜Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉝Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉞Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㉟Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊱Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊲Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊳Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊴Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊵Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊶Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊷Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊸Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊹Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊺Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊻Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊼Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊽Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊾Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。㊿Yの行為が寄託・保管の責任であるか否か。
第一審判決　東京地裁平成二十六年五月二十四日民事第一六部

審判、金融・商事判例一〇四号号五頁は、概ね次のとおり判断して、Xの請求を一部認容した。

すなわち、①ロッカの設置場所はYが経営する本件ゴルフクラブのクラブハウス内である。利用者本人の同意がある場合や緊急の場合はYの側で本件ロッカーを解錠できることがある。Xからすれば、Yにはロッカー内の保管物に対する占有がある。

本件の場合は、本件ロッカーはロッカー室内のロッカーにして存在する。かかる場合、ロッカーの位置上は目的の屈位に設置されている。Yがロッカーに保管した貴重品について判断の結果を、一定の管理方法をもって管理している。その結果として、一方の貴重品ロッカーに物を保管させた利用Xがロッカーの閲覧を行うので、YはXが善良なる管理者としての注意義務を払う必要がある。Yは管理者としての責任を負う旨を暗に表示していることになる。

そこで、一般的に管理の責任を負わない旨の表示がなされていたものの、Yは貴重品に関して責任を負わない旨の表示がなされていたものである。これは貴重品ロッカーに保管した貴重品について盗難に遭った場合には責任を負う旨を暗に表示していることになる。

②られて、Yは、それにもかかわらず、不審者が本件ロッカーに付近に預け置かれたことを見逃し、かつ、ロッカー内に侵入して本件ロッカーを解錠して保管された貴重品について考査したが、ロッカーの暗証番号を知って、ロッカーの暗証番号を用いてATMから現金が引き出されたキャッシュカードの暗証番号と現金引き出しの間には相当因果関係がある。

③ところで、貴重品ロッカーの類の暗証番号に所持するカードと同一の番号を用いることも、よくあるケースである。したがって、ロッカーの暗証番号を用いてATMから現金が引き出されることもまた、一般人を基準とした認識からすれば、キャッシュカードの盗難と現金引き出しの間には相当因果関係がある。

④Xが本件財布を本件キャッシュカードの暗証番号と同一の番号をロッカーの暗証番号として設定したときは、X側にも相応の過失があり、過失相殺により、四割を損害額から控除すべきである。

以上から、銀行キャッシュカードの損害額の六割である九

北研41 (4・209) 877
三万六千円についてＹが責任を負うと判断し、現金三万円の支払いを命じたものである。そこで、Ｙが控訴した。

判決　原判決中、控訴人がＹの敗訴部分を取り消す。控訴審判決（東京高裁第十一民事部平成十六年十一月三日判決、金融商事判例一二〇号）九頁は、次のとおり判断した。

日判決、金融商事判例一二〇号九頁に付された裁判所の主張である。この根拠に従って、商事商事裁判所の主張を否定した。すなわち、商事商事裁判所の主張を否定した。したがって、本件ロッカーの設備を本件ロッカーに設置されたロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことにより、Ｙは、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッカーの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められると、本件ロッターの内容物を把握していないことが認められる。
二場屋の主人の責任（商法九四条二項）について

本件ロッカー場は、利用者が特定の物に限られているわけではない、一般的に利用が可能な施設であると認められるから、公衆の来集に適する公物的施設を設け、客にこれを利用させることができない。この点を考慮しても同様である。

三場屋の主人の責任（商法九四条二項）について

(1) 本件ロッカー場は、客の来集を目的とする場屋に該当する。
(2) 本件ロッカー場は、客の来集を目的とする場屋に該当する。
本件ロッカーは、クラブハウスのロッカーの男子ロッカー室手前付近に設置されており、カウンターがないしフロントから見通せる位置にあった。

男子ロッカー室には、着替え室のロッカーに貴重品を入れても責任を負いません。という趣旨の掲示があったが、特に貴重品の保管に関する掲示はなく、不正を監視するビデオカメラの設置もなかった。本件ロッカーを利用することの際、利用者が自願で行なうものである。

オメガの時計は、利用者が自由であり、利用しても特に対価を徴収されず、特有の利用客が自由で行なうものである。

操作も利用客が自由で行なうものである。ただ、本件ロッカーの番号、入力装置の番号部分には、盗難防止のため暗証番号の盗用に関する警告するシールを添付していた。

暗証番号式ロッカーについて、暗証番号を入力する際に隣から眼を覗かれて内容物を盗取される被害は以前からあった。暗証番号式ロッカーについて、暗証番号を入力する際には、クラブハウスの入口で、利用者が自願で行なうものである。

キclejettカード二枚および現金一万円余りを入入れていたが、犯人は、カードと現金を引き取って財布は元のロッカーに戻していた。クレジットカードのうち二枚はキャッシュカードと暗証番号の同じであったため、一〇〇円を不正に引き出されたがこの被害についての被害保険で補填されたため、本件では損害として主張されていない。

<略>

(1) 本件ロッカーの利用者が貴重品を置いてプレイする際に隣から眼を覗かれて内容物を盗取される被害は以前からあった。暗証番号式ロッカーについて、暗証番号を入力する際には、クラブハウスの入口で、利用者が自願で行なうものである。

(2) 本件ロッカーを使用するのは一般的であった。その利用の有無は利用者の判断に任されており、Yが逐一これを

北研 41 (4・212) 880
チェックすることはない。利用対価も徴収されていない。しかし保管が予定されているのは、いわゆる貴重品であるから、Yは、本件ロッカーやを設置し管理する者として、経理上、これを安全な状態に保つ義務を負うというべきであり、これを怠った場合にYないし従業員の不注意として場屋の主人の責任（商法五九四条二項）として、あるいは利用者に対する不法行為として保管物について生じた損害を賠償する責任があるというべきである。

もっとも、本件ロッカーの設置場所はゴルフ場であり、利用者として多額の金品を持参する必要なく、貴重品を持参したままプレイすることも可能である。また、本件ロッカーは、応カウンターないロッフから見通せる位置にあったが、利用者の出入りがあり、常時従業員の厳しい監視下に置かれていたわけではなく、保管の安全性はもっぱら四角の暗証番号に依存する構造になっており、暗証番号が他人に悪用される場合は、盗難被害が発生する蓋然性が高いことは容易に認識し得るところであり、特に利用者の登録や対価の徴収もないものであるから、利用する側としてはそのような構造や設置の状況を前提として利用すべきものとされる。したがって、Yとしては、日常的に本件ロッカーが正常に機能することを確認し、本件ロッカーの周辺で不審な行動が見られるものをいなないかどうかに注意する義務がある。さらに、実際に発生した場合に、これに対応する適切な防止措置を取る義務があるというべきである。

これに対し、Xは、本件ロッカーと同様の手口による被害は、平成元年春頃から発生していたことから、ゴルフ業界内では一般的に知られていたことであると主張するが、これに認めるべき状況にない限り、安全保持のための注意義務は履行していたものというべきである。
した微操の盗難被害について、本件盗難の発生当時未だ一般的には報道されておらず、地域のゴルフ場の支配人会議においても話題になったことはなく、ロッカーの製造販売会社からの情報も寄せられなかったため、Yはこれれを認識していなかった。しかし、認識すべき状況にあっても、これを必要な意義に違反するものであるということとはできない。

本件ロッカーの設置場所以外で不正監視するビデオカメラを設置するものも、本件盗難の際の犯行グループの風体、挙動等具体的犯行状況を的確に認識し、監視することがないこと、本件ロッカーの暗証番号の入力装置はオマット型においてカバーがあなえ

したがって、Yが、特にこの微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の微操の従事者について、本件盗難の発生に関し、本件ロッカーの安全を保持する注意義務を違反するものであると

(評価)
決判の結論に反

一、本件控訴審判決は一部週刊誌で『偽造キャッシュカードを被害者として銀行は保証しないのか』との記事の中でも取り上げられている。本件では、小型カメラによるロッカーの暗証番号の漏洩という点も加わるが、窃取された銀行キャッシュカードの暗証番号とその暗証番号を使って現金を引き出し事件の一つで、これは以下のように被害者に対して『偽造カード等及び盗難カード等を用いて行われる不正な機械式預貯金払戻し等からの預金者の保護等に関する法律』が制定され、平成二八年三月

北研 41 (4・214) 882
一例に施行が予定されている。この法律によって、法施行後の盗難および偽造カードによる預貯金者の保護については、対策が講じられることになる。しかし、この法律施行前の損害については、後もこのような損害賠償請求訴訟が提起される可能性がある。現実には、任意規定であり、特約でこの責任を軽減または免除することとは妨げられない。

商法五九条の寄託を受けた商人の責任について

(1) 商法五九条の寄託を受けた商人の責任は、民法六五条に対する例外である。商人が特約により無償で寄託を受けた場合において、寄託の引受けをなした場合に関するものである。無償寄託に関する民法の原則によれば、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を害しかつ取引の円滑を害することができる。そこで、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。

(2) 商法五九条の寄託を受けた商人の責任は、民法六五条に対する例外である。寄託の引受けをなした場合において、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。無償寄託に関する民法の原則によれば、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。

(3) 商法五九条の寄託を受けた商人の責任は、民法六五条に対する例外である。寄託の引受けをなした場合において、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。無償寄託に関する民法の原則によれば、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。

(4) 商法五九条の寄託を受けた商人の責任は、民法六五条に対する例外である。寄託の引受けをなした場合において、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。無償寄託に関する民法の原則によれば、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。

(5) 商法五九条の寄託を受けた商人の責任は、民法六五条に対する例外である。寄託の引受けをなした場合において、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。無償寄託に関する民法の原則によれば、寄託者の注意義務が著しく軽減され、寄託の実状に適合せし、商人の信用を維持し取引上の需要に応じた場合に関するものである。
料

ケースであり、目的物が寄与者によって保管状態に置かれる
という受取りの状態に至っていないとして、本件ロッカー
使用の事実関係があるだけであると判断する。たしかに、
民事寄託の事案において、ロッカー用者が終
始貴重品ボックスの鍵を保管していて、ロッカ
ンス内の物品を出し入れできたことを理由
に、寄与物の保管すなわち所持の移転には至ってい
ないとは無関係に寄託契約の成立を否定した東京
高等裁判昭和二八年八月三一日判決がある。これ
は、貴重品ボックス内の物品を盗難に遭い、その
鍵を脱衣室に入れて入浴した最中に鍵が盗難に遭い、その
鍵で貴重品ボックス内の物品を盗難にあったという事案であ
り、本件とは異なる。

本件と同様に、ロッカーウー等の施設内に小型ビデオカメラを
設置し、貴重品ロッカーから窃取したキャッシュカードを使
用して現金を引き出す事案において、下級審の判例は、ロッ
カーニに指定されたものに限定するものと認められ、この
認定を否定する本件判決に、商法五九三条の寄託があったと
して承認されてはならないとする。これに対して、この責任を否定する判例の理論構成として、本件の原審判決のよう
に、商事寄託契約の理論構成としては、本件の寄託契約のよう
に、商事寄託契約の理論構成として、寄託契約の成立を否定し
る方針が採用されている場合を含める。商法五九三条以
上的事実が証明された場合には、受領があったという事実に
基づいて、これらのものには、その受け取ったものを返還する
義務があり、その物が滅失・損壊したときは、そのことにつ
いて自己に故意または過失がなかったという理由を正当化して
も賠償責任を免れることができないという法律上当然に絶対
的な結果責任を負うことである。ローマ法においてこのよう
な厳格な責任が認められて来たのは、当時、これらの者よ

北研 41 (4・216) 884
<判例研究>

使用人、盗賊や詐欺者等と共謀した、運送品の拠点取引や携帯品の横領などその他さまざまな不正行為を犯す他の者の行為を維持し、また運輸・交通経済の安全を確保するために、物資を受領したことに根拠を生じる絶対的な結果責任を負わせたものが必要である。しかしながら、この絶対的な担保責任を認めることとは余りにも厳格にすぎることもあり、荷物となる事例がある。これによる旨を構成する場合においては、責任を免れることができることにしたのである。ただ、立法論として、現代において、場屋営業者がその使用人や盗賊等と共謀して客の携帯品を拠点取引することや横領することは想定しあったことである。場屋営業者の結果責任を定める規定が存置されている理由の一つは、場屋営業というものが、経営の多角化において多種多様な営業形態が創出されつつ複雑化され続ける性格を有するものであるから、法規制がきわめて難しいことにによるものである。ただし、この規定は任意規定であると解釈することができ、実務に関しては責任制限を約款に定めることにより、当事者間の利益調整の妥当な解決を図ることが行われております。
がなく、正常に機能しているかどうかを毎日点検し、本件ロッカーカーの番号入力装置のカバー部分には、盗難防止のため暗証番号の盗用に注意するよう警告するシールを貼付していたか、当時の状況下において、特に注意すべき態様の犯罪行為が認識され、または認識すべき状況にない限り、安全保持のための注意義務は履行していたとする。つまり、②盗撮用ビデオカメラを利用した態様の盗難被害については、本件盗難の発生当時は未だ一般的には報道されておらず、地域のゴルフ場の支配人会議においても話題になったことはなく、ロッカーの製造・販売会社からも情報を受けられたことは無かった。したがって、Yとしてはこれを認識していたとは考えられない。この①②に対応する防止措置を取ってしまいなかったことは、Yの本件ロッカーカーの安全を保持するための注意義務に違反するものでない。と判断する。
資料

本件のリスクをより多くを担うことがならのであり、場屋営業者はその事業の性質上、このような危険につき注意をしなければならないが当たるのも当然である。

本件判決が×の件ロッカーの安全保持に関する注意義務に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。たとえ事件発生時に違反しないとする判決には疑問が残る。
Yに認めている。なお、秋田地裁民事第一部平成一七年四月一日
前の判決も過失相殺四割を認めたケースである。本件において
て、同じ認定事実を前提にしながら、地裁と高裁での各判決
の判断が分かれている。微妙な事実の評価の問題である。
問題はXの銀行キャッシュカードが高価品であるか否かで
ある。これでは、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深く立ち
入れないことにした。多くの場合のように、紙面の都合上、この問題にあまり深くstanding. したがって、故意・重過

北研 41 (4・221) 889
失に関することの最高裁の判決は問題とならないということになる。

ただ、本件のようなゴルフ場等での犯罪が多発している現在において、もし、このような犯罪発生防止のための十分な措置がとられなかった場合には、軽過失だけでではなく、重過失が認められるケースも出てくる可能性があり、場屋営業者のかかる犯罪抑止・防止への取り組みが必要かもしれない重
要になる。

四 おわりに

場屋営業者の責任に関する商法の規定は任意規定であると解されているから、個々の客との特約により、営業者はその責任を軽減することもできる。ただし、故意または重大な過失による損害賠償責任を除く特約は無効と解すべきである。一般に、発約自由の原則に基づき有効であると解されている。もちろん、公序良俗・信義誠実の原則などの一般原則により制限される場合には当然である。不法行為責任についてもこれらの約款が適用される。

なお、防衛の意義をもつから、発約自由の限界づけという観点からは、不法行為上の請求権に基づく具体的損害計算は排除されなければならないので原則である。というのなら一般的の不発約責任は被害を予想できないのと異なり、場屋営業において当事者は承知を知り得ないが、承知し得ないから、客として、盗難被害の総額等によって、その立場を守るのが合理的だからである。しかし、例外的に、被
害者（客）に最小限度の保護を保障するという不法行為法の任務から、私的自衛による法益の処分が許される限度との関
係が問題となる。損害計算および責任最高額の制限の規定における不法行為法の役割が問題となる。
場合の損害は、製造業者及び経営者の責任の範囲に含まれるものであり、製造業者及び経営者に責任があるからです。したがって、これらの場合の損害の所属は、製造業者及び経営者に責任があるです。

このようにして、製造業者及び経営者の責任の範囲に含まれる場合の損害の所属は、製造業者及び経営者に責任があることが分かります。したがって、製造業者及び経営者に責任があるか否かは、製造業者及び経営者の責任の範囲に含まれるか否かを判断することです。

したがって、製造業者及び経営者の責任の範囲に含まれる場合の損害の所属は、製造業者及び経営者に責任があることが分かります。したがって、製造業者及び経営者に責任があるか否かは、製造業者及び経営者の責任の範囲に含まれるか否かを判断することです。
いいね

私たちは、

日本語

です。

これから

どう

思いますか？
など。

注（8）参照。

11 金融・商事判例一二〇号二一頁。
13 最高裁判第二小法廷平成四五五年二月二八日判決、裁判所時報
14 拙稿・前掲四五頁並に。拙稿・前掲四五頁並に。
15 三四四号四五頁、判例時報一八九号五一頁。
16 地元信泉『商行為法要論』四三九頁（広文堂書店昭和一四年）。
17 拙稿・前掲四六〇頁。